



## 第6回 JFVSS便り

JFVSSの第1期生として佐藤雅彦先生（内科専門医コース）がコロラド州立大学(Colorado State University, CSU)に留学してからおよそ3年が、また第2期生の徳永暁先生（外科専門医コース）が渡米してから約1年が過ぎました。今年アメリカ獣医内科学専門医協会の年次大会(American College of Veterinary Internal Medicine [ACVIM] Forum) がコロラド州のデンバーで開催されましたので、その大会に参加した後、代表理事の小林哲也先生と一緒にCSUを訪問しました。今回のJFVSS便りではACVIM ForumとCSU訪問の様子をお伝えします。

### ACVIM Forum (デンバー)

デンバーはコロラド州の州都であり、ロッキー山脈の東側の高地にあります。数年前から成田・デンバー間の直行便（約11時間）も運行されるようになり、アメリカの中でも行きやすい場所になりました。今年のACVIM Forumは、6月8日から11日の4日間、デンバーの中心街にあるコロラドコンベンションセンター(Colorado Convention Center, CCC)で3,000人以上が集まる大規模な学会になりました。

ACVIMは1973年に米国獣医師会に承認され、これまで40年以上にわたって獣医内科学専門医の



写真1 ACVIM Forumが開催されたコロラドコンベンションセンター(Colorado Convention Center, CCC)前でのスナップ写真。学会に参加しておられたJFVSS第1期生の佐藤雅彦先生（左）と第2期生の徳永暁先生（右）。建物正面の外には巨大なクマのオブジェが造られており、外壁のガラス越しに会場の中を覗いているように見えます。CCCのシンボルとなっており、訪れた多くの

養成、試験および認証を行ってきた団体です。その年次大会(ACVIM Forum)は毎年6月頃に開催され、獣医内科学の各分野をレビューする教育講演(Comprehensive Review)、最新の内容を紹介するSOTA(State-of-the-Art)、レジデント等による口頭発表(Research Abstracts)やポスター、専門家による共同声明(Consensus Statement)、インタラクティブセッションといった様々なサイエンティフィックプログラムが用意されています。私はおもに血液・免疫疾患や消化器疾患に関連したセッションに参加しました。そこでは、アメリカだけではなくイギリスやオーストラリアの専門分野の先生とお会いすることができ、今後の臨床や研究の方向性を考える良い機会になりました。参加しておられた韓国の先生ともお話しして、私達アジアにおける専門医制度 (Asian College of Veterinary Internal Medicine, AICVIM) について打ち合わせをしました。

今年のデンバーでのACVIM Forumには日本からおそらく20人以上が参加していたと思います。日本国内でお会いする時にはお互いに時間がなく、ゆっくりお話できないことも多いのですが、デンバーのようにリラックスした雰囲気のある街では皆さんと楽しい時間を過ごすことができました。佐藤先生と徳永先生もCSUのあるフォートコリンズからデンバーに来ておられ、学会場でお会いすることができました（写真1, 2）。

学会2日目には血液学のResearch Abstractsセッションがあり、CSUのレジデントである佐藤先生は犬の免疫介在性疾患に関してインパクトのある口頭発表（タイトル：A retrospective study on use of leflunomide in dogs with immune-mediated diseases）をしていました。会場からの質問に対する受け答えもしっかりしており、発表後には指導教員・共同演者のLappin先生(CSU)も喜んでおられました。

ACVIM Forumの開催時には獣医専門医制度のためのビジネスミーティングも行われており、試験合格者に専門医の称号を与えるセレモニーが行われます。JFVSS第1期生の佐藤先生が2年後にフェニックス（アリゾナ州）で開催されるACVIM Forumで晴れて専門医になってくれることを楽しみにしています。私がACVIM Forumに初めて参加したのは2001年に今年と同じデンバーで開催された時のことでした。ちょうどその時、JFVSS代表理事の小林哲也先生がACVIMの専門医試験に合格された直後で、学会場の近くのレストランでお昼をご一緒させていただいたことを懐かしく思い出します。

### CSU訪問（フォートコリンズ）

ACVIM Forumが終わった翌日、小林先生と筆者はそれぞれの病院スタッフとともにデンバーから60マイルほど北にあるフォートコリンズに向かいました。車で北上するにつれ、雪を頂いたロッキーの山並みが徐々に近づいてきました。大都会のデンバーから自然の中に向

かうのを実感し、2時間ほどで緑の多い清々しいフォートコリンズに着きました。

到着早々、私達は佐藤先生ご夫妻とともに市内にあるメキシカンレストランで一緒に食事をさせていただき、楽しい時間を過ごすことができました。佐藤先生がコロラドに来られてからすでに約3年が経ち、すっかりアメリカにも慣れて充実した仕事をしておられる様子がよくわかりました。

翌月曜日には、JFVSS活動に関するオフィシャルミーティングをするため、小林先生と私の2人でCSUのVeterinary Teaching Hospitalを訪ねました。ミーティングには、CSUの受け入れ教員としてMichael Lappin先生（内科）とCatriona MacPhail先生（外科）においでい



写真2 学会2日目のお昼休み、学会会場の近くにあった地元のピザショップ(Anthony's)での昼食時のスナップ写真。小林先生をはじめとする日本小動物医療センターのメンバー、私達東京大学動物医療センターのグループ、そしてJFVSS 奨学生の佐藤先生と徳永先生が加わりました。皆で25インチの巨大なピザを注文し、とても美味しくいただきました。写真：右から、佐藤先生、小林代表理事、徳永先生、筆者。

ただきました。

はじめに、第1期生の佐藤先生と第2期生の徳永先生のCSUにおける様子をお二人の先生に伺いました。Lappin先生は内科レジデントとして学生を指導しながら診療業務を行っている佐藤先生について、臨床、教育、研究のいずれに関してもきわめて高い評価をしておられました。私が一番心配していたのは、通常の語学力以上のものが要求され診療時のコミュニケーションのことでしたが、飼い主様からの評判も良く、しっかりとした診療をしているとのことでした。徳永先生も佐藤先生と同様、最初のマスターコース(Toxicology)の修了に必要な単位を1年間で取得し、今年からClinical Scienceのコースに入ることが決まったとのことでした。徳永先生はすでにAmerican College of Veterinary Surgery (ACVS)に登録され、今後は臨床系の講義をとるとともに臨床のラウンド等に参加して外科学のトレーニングに入る予定になっていることを MacPhail先生から教えていただきました。徳永先生もCSUのスタッフから良い評価を得ていることを知り、今後の活躍を大いに期待しているところです。

さらに、次期奨学生の受け入れについてお二人の先生と相談し、JFVSS第3期生を2017年秋に受け入れていただくことが決まりました。現在の第1期生と第2期生の今後のスケジュールとの兼ね合いから、第3期生は一般内科で受け入れていただくこととなりました。Lappin先生からはJFVSSの次期奨学生を歓迎するとおっしゃっていただきました。このことは、

佐藤先生と徳永先生のこれまでの素晴らしいパフォーマンスによるものと思ひ、小林先生と私は今回のCSUミーティングを終えて記念写真(写真3)を撮らせていただいた後、充実した気持ちで帰国することができました。

2016年6月  
JFVSS理事 辻本 元



写真3 ACVIM Forum終了後の6月13日にCSUを訪問した際のスナップ写真。CSU-JFVSSオフィシャルミーティングを終えた後、リラックスした状況でMichael Lappin先生(CSU, Clinical Science, 感染症分野教授)と一緒にFlint Animal Cancer Center (CSU Veterinary Teaching Hospitalのメインビルディングの隣に併設)の前で写真を撮らせていただきました。写真：左から、小林代表理事、Lappin先生、筆者。

## VMN-JFVSSセミナーのお知らせ

8月11日(祝) 東京大学弥生講堂

・参加費(無料)

・タイトル: 鑑別診断から考える犬と猫の腫瘍の診断

・講師陣(仮、敬称略): 石田卓夫、賀川由美子、小林哲也、辻本元、西村亮平、亘敏広

・講演予定時間: 14時~18時

事務局:

公益財団法人 日本小動物医療センター附属日本小動物がんセンター内

メールアドレス: [info@ifvss.jp](mailto:info@ifvss.jp) 公式ウェブサイト: [www.ifvss.jp](http://www.ifvss.jp)